

福井県における郷土史研究の動向

（成二十二年）

福井県文書館は平成21、22年度の事業で、松平家の「家譜」270冊のうち慶永（春嶽）に関わる部分を翻刻し5冊に分けて刊行、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館では越前朝倉氏に関する歴史史料を460余年間にわたって網羅した『越前・朝倉氏関係年表』を刊行した。それぞれ幕末期の福井藩、越前朝倉氏の研究にとって大変重要な基礎資料となっている。小浜市は約10年前から『若狭国太良荘史料集成』編纂に取り組んでおり、23年度に4冊目を刊行する予定。坂井市では、市史跡「豊原寺遺跡」の白山神社跡周辺の発掘調査を進めている。

また、地域の魅力を再発見し広く伝えようとする地域おこしの活動も活発に行われ、多くの地域で自治体や住民による地元の歴史や名所旧跡、自然などをテーマにしたガイドマップの作成や「ふるさと検定」などの取り組みがなされた。

このほか22年に刊行された主な出版物を紹介し、県内郷土史研究の動向としたい。

一、自治体史・地域史

『福井県の歴史散歩』（山川出版）が約20年ぶりに大幅改訂された。また、『福井藩』（舟澤茂樹著 現代書館）は全国の諸藩の歴史を紹介するシリーズの一冊として発行。270年に及ぶ福井藩の歴史がわかりやすく描かれている。

市町史では、合併による越前市誕生記念として企画された『越前市史』の第一冊目として、明治3年の「武生騒動」を取り上げた「資料編14」が発刊された。美浜町は、歴史分野（計3巻）の2冊目となる『わかさ美浜町誌 美

浜の歴史 第1巻』を発刊。町の自然や地域社会の歴史など幅広く収録している。

地区史も多く刊行された。坂井市丸岡町高嶺地区の「たかむくのまちづくり協議会」は、『たかむく玉手箱』を発刊。小学校の副読本としても使えるよう平易な表現や豊富な写真、資料を用いている。同市三国町下西区では、『下西物語』を作成。『富津・開拓と区のあゆみ』（市村敬二）は、終戦直後につくられた開拓集落であるあわら市富津区の開墾の苦難やサツマイモの特産化などの経緯をまとめた労作。福井市では、文殊地区の「村の歴史懇話会」が会報『温故叢談 第6号』を地域住民から寄せられた写真を収めた「ふるさと文殊風雪の100年写真号」として発刊、『我がふるさと上東郷区誌』（上東郷区誌編さん委員会）も発刊された。永平寺町では『湯谷区誌』（湯谷区誌編纂委員会）、勝山市では、市広報の連載をまとめた『歴史の散歩道』、勝山市中心部の通りや路地などにスポットをあてた『まちなかの古道を歩く』（丸屋仁志）が発刊。大野古文書会は、長期にわたり取り組んでいた幕末の大野藩士内山介輔が書いた『物頭役勤方手控』の翻刻と解説をまとめ刊行した。鯖江市では、『中河地区史』（中河地区史編纂委員会）が発刊。同地区の地理・自然、原始から現代までの通史を体系化した1000ページを超える大作である。越前市では、『小丸城跡考』（笠嶋怜史）が発刊。

嶺南地域では、地区の自然から伝承まで幅広い分野を網羅した『小浜市遠敷郷土誌』（遠敷郷土誌編纂委員会編 遠敷地区ふるさとづくり推進会）、若狭町の『大鳥羽史』（大鳥羽史編纂委員会編 大鳥羽会館）が発刊された。

二、史跡調査報告書

県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館は第51・52次調査の報告書『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 10』を刊行。鯖江市教育委員会は昨年に続き考古学研究フォーラム記録集『方形周溝墓の埋葬原理 2』を発刊。小浜

市教育委員会は、平成18年度から21年度に現地調査をした若狹神宮寺遺跡・武田氏館跡関連遺跡の発掘調査報告書『小浜市重要遺跡確認調査報告書3』、敦賀市教育委員会は『大町田遺跡 中郷公民館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』を発刊した。

三、人物

子どもたちがわかりやすく学べるように工夫された出版物が相次いだ。県立こども歴史文化館では、県ゆかりの偉人を紹介する「これき人物シリーズ」を年1冊のペースで発刊することとし、その第一弾として『杉田玄白』を発刊。鯖江市教育委員会は、鯖江ゆかりの人物33人を選定し、そのうちの16人を掲載した『さばえ人物ものがたり 上巻』を発刊、福井市橘曙寛記念文学館ではパンフレット『わたしが橘曙寛です』を作成、大野市は金森長近、土井利忠等をテーマにした資料を作成し市内小学校に配布した。

また、『新田義貞公と時衆・称念寺』（高尾察誠著 称念寺）、歴史講座講演録『由利公正と福井藩』（福井市の歴史のみえるまちづくり協会）、『食育の祖 石塚左玄物語』（岩佐勢市著 正食出版）などが発刊された。

四、各分野団体史

学校史では、『しいのみ 鯖江市北中山小学校創立100周年記念誌』、越前市の『山千飯 白山小学校創立百周年記念誌』、小浜市内外海小学校『夢に挑戦！創立20周年のあゆみ』が発刊。また、平成22年3月に閉校、休校した学校の記念誌として大野市森目小学校『137年の歩み閉校記念誌』、坂井市の竹田小学校、丸岡中学校竹田分校『竹田の学校記念誌』が発行された。

団体史としては、『新田塚幼稚園四十周年記念誌』、『福井県PTA連合会六十年史』、福井市啓蒙公民館創立60周年記念誌『蒙を啓く II』、池田町老人クラブ連合会『五周年記念誌』、『福井県壮年団35年の歩み』、福井県遺

族連合会設立60周年記念誌『平和のあゆみ』敦賀市文化協会『50年のあゆみ』、福井男女共同参画ネットワーク『激動の20年』、『福井県商工会50年史』、南越法人会『50年のあゆみ』。スポーツ関係では、『越前市体操協会創立50周年記念誌』、福井県フジボール卓球協会創立10周年記念『福井のラージ二十二年のあゆみ』、福井山岳会の創立70周年記念号として会誌『黒百合 46号』、武生山岳会『五十年の歩み』などが発刊。

五、民俗・文化財

民俗関係では、美浜町の民俗をテーマに年1回刊行している「美浜文化叢書」の5冊目として『わかさ美浜民俗誌』（美浜文化叢書刊行会）が発刊された。町民が書き綴ったものをまとめた庶民の視点からの民俗誌となっている。『神と紙の郷・祭りの心』（第三十九回式年大祭実行委員会）は平成21年5月に開かれた越前市大滝の岡太神社・大瀧神社の式年大祭の記録誌。式年大祭とご開帳の様子を映像に収めたDVDも作られ、共に後世に伝える貴重な記録となっている。池田町では、「緑のふるさと協力隊」から1年間派遣された著者が町内の高齢者から民話を聞き取りした『池田町民話集』（徳谷健著 池田町）が発刊。また、祝い歌の復興に取り組む「慶祝謡クラブ」が「池田祝い謡」とオリジナル曲を収録した設立五周年記念誌を発刊した。このほか、映像資料として、ふくい伝統文化活性化事業実行委員会が栗田部の蓬萊祀など4件の越前の正月・小正月行事を収録したDVDを発行した。

神社関係では、坂井市の鳴鹿まちづくり推進協議会は『鳴鹿地区神社集落の由来と言伝え』を、越前町織田の劔神社は、『越前国二の宮劔神社の歴史』（水島通夫編 劔神社）を発刊した。

あわら市教育委員会は、旧金津、芦原両町の全文化財をカラー写真で紹介した『あわら市の文化財』を発行した。

六、自然・工業・産業

『福井県地質図』（福井県地質図改訂委員会編 福井県建設技術公社）が41年ぶりに改訂された。県内地質関係者らが改訂作業を進め、旧版で調査が不十分だった地域をすべて現地調査し県全域を網羅するとともに最新の研究成果を加え、地質図を電子データで収録したDVDを付けた。福井市自然史博物館は、同館の特別展にあわせて『福井の淡水魚図鑑』を作成。県内の川や湖にすむ淡水魚の写真や生態や生息地などをわかりやすく解説している。小浜市教育委員会は『天然記念物蒼島暖地性植物群落保存管理計画策定報告書』を発刊。敦賀市池河内湿原を20年間撮り続けた著者による写真集『敦賀・池河内』（吉田俊雄著 冬青社）も出版された。

『若狭路文化叢書』第7集として『滋賀縣物産誌 首巻・敦賀郡』（若狭路文化研究会）が復刻された。越前市南中山地区自治振興会は、地区の地場産業の歴史を後世に伝えようと『聞き書き南中山の織物』をまとめた。そのほか、福井市教育委員会は『旧城地家住宅移築復原工事報告書』を発刊。地方行政の立場から40年にわたる原子力行政を振り返った『君は原子力を考えたことがあるか』（来馬克美著 ナショナルピーアール）や、『福井の山と川と海と原発』（山崎隆敏著 八月書館）なども出版された。

七、芸術・文学

小浜市文化協会は『文協小浜』創立50周年を記念した特集号を発刊。芸術関係では、保堂会教育福祉財団が県内美術館の歴史や収蔵品を紹介した『中学生のための福井県内美術館ガイドブック』を作成。ドキュメント『奇跡の「地方前衛」 福井近代美術1920～1945』（土岡秀一著 福井新聞社）、『漆芸家真保由斎図案集』（越前漆器協同組合・由斎会）、図録『画家・志田弥広の足跡をたどって』（金津創作の森財団）などが発刊された。

文学では、『娘十八で心しよぎしよぎ 江戸時代「福井の雑俳」句解の試

み』（立平幸太郎）。『福井の俳匠伝と誤説抄』（斎藤耕子著 福井県俳句史研究会）などがある。

八、歴史研究施設の動向

各施設の特別展などを紹介する。福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館は、企画展「一乗谷の医師」と関連講演会を開催。福井市立郷土歴史博物館は「福井城と城下町のすがた」「藤島神社の宝物」を開催、また『佐々木長淳家・土肥慶蔵家寄贈資料目録』を作成した。大野市の「越前大野城築城430年祭」では「大野城フォーラム」などととも到大野市歴史博物館で特別展「越前大野城」が開催された。みくに龍翔館は坂井市域の年中行事から「神楽・左義長・表児の米」、越前市武生公会堂記念館は「槌の響 越前打刃物展」、越前町織田文化歴史館は、「神仏習合の源流をさぐる 気比神宮と劍神社」、県立若狭歴史民俗資料館では「写された若狭 古写真の世界」、敦賀市立博物館は「近世敦賀の幕開け 吉継の治めた湊町」を開催した。紙面の都合上割愛したものについては、ご了承いただきたい。